

大分県 現代俳句協会 会報

第114号
平成30年8月20日

活気ある県協会の建設を！

あなたの周りの「俳句に関心がある人」を

ご紹介ください

第1回幹事会開かれる

5月9日(水)、中津市高瀬にある和食レストラン「こなみ」で、平成三〇年度第一回幹事会が開かれました。足立攝幹事長、白水風子幹事、井元扇岳幹事の全員が出席し、協会の本年度の方針と、中・長期の方向性について協議しました。

幹事会では総会で承認された「第21回大分県現代俳句協会賞」について討議し、旧執行部提案のとおりに行うことを確認しました。本会報(114号)に募集要項を掲載しましたので、奮って応募ください。また、幹事会では、総会で意志一致された「協会を大きくすること」

「若返ること」「協会の影響力を高めること」について時間をかけて具体的に協議しました。

協会の拡大では、TVなどの影響で俳句に対して関心が、かつてなく高まっているにもかかわらず、協会が新規会員を獲得し切れていない状況が話し合われ、①役員を先頭に会員一丸となって友人等対象者に入会を訴える、②会報やイベントなどの現状を見直し、会員にとって魅力ある協会へと脱皮する、という方向性で一致しました。

会員獲得の際、しばしば問題になるのは新会員の「質」です。会員が

増えれば協会の質が下がる懸念する会員もいます。幹事会ではこの問題を協議し、入会の条件として一切の俳句の質、経験を問わないことを確認しました。入会のレベルをどこに置かかというこれまでの議論に終止符を打ちます。俳句に関心があり、かつ規約を承認する人であれば誰でも会員になれます。

同時にこれまで協会の支援の手が届かず、退会した会員が多数いることを重視し、元会員に対する再入会を促すことも確認されました。また、親子、兄弟、配偶者など、同一家族の入会を促進するため、会費軽減等の措置を検討していくことも決まりました。児童・学生の会費は無料にする方向で大会に提案し、承認を得る予定です。協会員の数が、過去最も多かったのは河野輝暉会長時代の二百人超えなので、当面の目標をそこに置きます。

会員を総数だけでなく、会員構成の内容(地域比、年代比、男女比、児童学生のウエイト)で把握し、目標を持って若返りを進めていきます。会報については、現状の年3回の発行から、年4回に移行することを視野に入れながら(会員数、予算の兼ね合いが大きい)、当面は誌面を

「会員のため」という視点で刷新していくことが確認されました。その一環として、多くのページを割いていた雑詠句会の報告を、別途発行する句会報に移し、会報では会報本来の記事を充実させていきます。

協会主催のイベント等については、当面は国民文化祭「水の森全国俳句大会」、第55回現代俳句全国大会などの取り組みを強化します。独自の取り組みとしては、各地域で協会主催の吟行会、勉強会、俳句教室などを積極的にを行い、一人ぼっちの会員をなくそうということが確認されました。

最後にこれらの日常的な取り組みの方針として具体化していくためには、総会で選出された二名の幹事だけでは決定的に少ないので、新たに若干名の若い幹事を加えることを確認しました。日を改めて田代直之氏(由布市)、菅登貴氏(大分市)、田中充氏(大分市)の三人に幹事就任を依頼し、快諾を得ました。この三人のほかにも、事業拡大にともなう幹事の増員を、必要に応じて図っていく予定です。幹事会が任命した新しい幹事は、幹事会の責任の下に幹事と同等の任務を遂行し、次期総会で承認を得ます。

現代俳句講座

俳句・一瞬を切り取る詩

高野ムツオ

会員から要望が多かった、高野ムツオ現代俳句協会副会長の講演を再録します。未曾有の大震災を経験した、俳句の今日的到達点について、高野副会長が縦横に語ります。(第35回現代俳句講座・平成23年6月11日東京)

常々、俳句は時間を表現出来ない、一瞬を切り取り、そこに作者の様々な思いや感情を表現していく詩形と
思っていました。そういうなかで「東日本大震災」に衝撃的に向き合っ

たわけですが、この震災と係わりながら、俳句の表現について話したいと思います。

震災の前日は東京の秋葉原で、「どこでも五七五」という番組の収録を終えました。震災の日3月11日は仙台の駅ビルで30年ぶりに友人たちと会って



ていました。そこで地震なのですが、とにかく音が凄かったです。私たちは駅ビルの地下から駅の広場に出ました。そこでは映画のシーンを見るようで、数百人から千人の群衆がたむろしていました。余震も凄く、不安と恐怖のなかで、恐ろしいな声を聞きました。電車

バスがありませんので、住んでいる多賀城までの13キロぐらいい歩いて帰ることにしました。携帯電話はつながらず、5時半ころ気楽な気持ちで国道を歩き始めました。電気は消えています。車のライトで道は明るい。車を追い越して歩き

たことになり。住居はマンションの五階で、くたくたになって寝ました。車は無事だったので、カーナビで津波の映像は見えていました。しかし津波の本当の恐ろしい姿を見るのは翌日のことでした。(写真がスクリーンに・会場より驚きの声)

俳句を作ろうと思いはじめたのは駅の広場に逃げたときからですが、歩いて家に帰りながら、いろいろ考えました。

ました。家まで2〜3キロのところになさしかかったとき、「何かがおかしい」と思いました。車が横転しているのです。こういうときに交通事故故とはななてことだ、と思っていました。次々と車が横転したり仰向けになったりしている、大きなトラックまでそうなっているのを見て、「これは津波だ!」と思つたのです。津波のことは、たまたまつなつた携帯電話で知っていました。仙台港10mという情報が入っていたのです。国道まで津波が来るとは思っていなかったのですが、実は来ていたので、コンビニナートのもの凄い爆発音も聞きました。歩くことの出来る道を探りながら、家に着いたのは10時間。4時間半から5時間ぐらいかかっ

一つは、阪神淡路大震災の俳句が気になりました。当時朝日新聞から俳人たちに1句出すように言われていました。しかし自分の作品が空々しく感じ、出さなかつたのです。数日後、師の佐藤鬼房のところに行つて「先生は出しましたか?」と聞く。「俺は出したよ」との返事。後で、出来た本を見て、やっぱり表現することは大事だと、後悔の気持ちを持ちました。阪神地区の多くの俳人たちが良い作品を出していました。やはり句にしなければいけないのだと思いました。そのことがずうっと頭のなかにあつたので、まず俳句を作ろうと考えたのだと思います。

二つ目。私が生きているなかで俳句っていったい何だろう、と思いましたが、これも常々考えていたのですが、この震災に遭ったときにも思いました。自分のこころを支えるためにあったのではなからうか、と。他人に何かを伝えるためではなく、自分が表現することで、そこから力を得ることが出来る、と思ったのです。特にそう思ったのは4年前に咽頭癌の手術をしまして、もしかすると声が出なくなるかも知れないと医者から言われていました。不安のなかで作った俳句が私自身を随分元気付けてくれました。だからこんども俳句を作ろうと思いました。

三つ目。やっぱり俳句は瞬間を切り取る、ということ。生きなければいけない、家族の心配もする、そういうことが一回収まってから遡って俳句を作ろうとしても、その遭ったときと数日後の作者の間に少しづつ乖離が始まります。前に戻って俳句を作ることが出来ないのです。瞬間をそのときに表現しなければいけないと思っただけです。

ここで阪神淡路大震災のときに私が感動した句を掲げます。

倒・裂・破・崩・礫の街寒雀

友岡子郷

大変有名な俳句です。映像メディアが現在のようになってから可能となった表現で、カメラのフラッシュでパツパツと映像を見せているような感じです。寒雀はいつでも必死、寒雀に、ひたすら生きている人間を重ねた俳句だと思います。

寒暁や神の一撃もて明くる

和田悟朗

和田悟朗さんも阪神淡路大震災の被災者です。「神の一撃」がいろんな解釈を生みますが、自然科学者である和田悟朗さんであるから、大自らの摂理そのものが一撃となって現れた、その大自然の大きな力のもとに人間は生きていることをもう一回確認するのだ、そういうふうに私はとらえ、こころを打った俳句です。

枯れ草や大孤独居士ここに居る

永田耕衣

当時95歳になった永田耕衣さんの、震災翌年の句です。トイレに入っていて震災に遭われ、銅製の銅鑼み

たいなのをガラガラ鳴らして救助されました。目の前に広がる枯草を見ながらの句です。人間の孤独は、永田さんが常に言っていることですが、その孤独に居士をつけたところが永田耕衣さんらしいと思います。居士とは死んだ人間のことで、あたり一面の枯草のなかで、俺は黄泉の国からよみがえってここに居るんだと、諧謔味をもって表現しました。直接、震災にあつたなどとは言っていないのですが、そういう経緯があつたからこその言えただと思えます。

それから二つ目の「こころを支える俳句」、たくさんあるのですが、皆さんも存じの有名な句をいくつか掲げます。

水脈の果て炎天の墓碑置きて去る

金子兜太

トラック島で多くの、亡くなった戦友をそのままにして帰るとき、墓碑が立っているところを眺めている、そういう句です。悲しみと「置き去る」に表現されたもの、つまりその

悲しみを越えて生きていこう、死を無駄にしないぞ、という思いが書かれています。この金子兜太の俳句は

他の人に知って貰うためのものではなくて、今ある自分のこころの再確認、俳句というのは自分が元々思っていたことをそのまま書く、なぞるのではないのです。漠然とした思いが言葉で表現することによってはじめて、新しいものとして立ち上がってくる、そしてそのことが支えになるのだと、そのように私は思います。

暗闇の目玉濡らさず泳ぐなり

鈴木六林男

この暗闇はどこにあるか、そういうことではなく心象的なものだと思います。実際に泳いだ戦争体験に基づいているのかもしれませんが。その暗闇のなかで目玉だけがキラキラ光っている。現実の暗闇であると同時に時間のなかの暗闇、戦後と言ってもさらに暗闇が続いていくだろうという醒めた認識があります。その暗闇を泳ぎ切っていこうとする意志の表現だと思えます。作者はそれを作り上げることによって、それを確認しているのだと思います。

縄とびの寒暮いたみし馬車通る

佐藤鬼房

澗をたらしながら子供たちが縄とびをしてる。どこにでもあるような寒々とした景色です。側を馬車が通る、塩竈ですから魚を載せた汚い、壊れそうな馬車がゴトゴト通る。打ちひしがれそうな情景です。でもどこかに生きる思い、活気があります。縄とびの縄の音、馬車の音がある。そこに作者は自分の生きる気持ちを

確かめている。確かめることによつて明日へのこころの支えとして。ある日ある時の瞬間がこれらの俳句に捉えられていると思うのです。(近所の川の写真：白鳥 海鵜 蘆 など)

白鳥の写真は震災のものではなく、ブルトナーが川に入って浚

数年前のものですが、この川に毎年白鳥が来ます。そして震災後ほぼ1週間後の写真、海鵜が映っています。自然のただならぬ事態にあつてはぐれてやって来たのでしょうか。

いるだろうか？という事です。「春の地震」とか「春の津波」など、そんなよそよそしいことは言えませんが、季節感はありません。季節感はない、津波邪魔をします、地震そのもの、津波そのものを俳句にしようと思いました。

川の写真 (川の写真) ブルトナーが川に入つて浚

大分県現代俳句協会賞は、県協会の目指す俳句の方向性を内外に示すとともに、県協会の質的向上(応募者・選者とも)をはかる目的で制定されました。過去にのべ20名の受賞者を輩出しています。本年度から、平成23年以来中断された協会賞を再開します。本年度は再開第一回ですので、特典もありません。以下の要領でふるってご応募ください。

〈応募要項〉

応募資格：県協会員であること(過去同賞受賞者は除く)
作品：20句(一人一編限り)
今回のみ過去五年(平成25年10月～平成30年9月)の作品。既発表、未発表を問わない。

第21回大分県現代俳句協会賞

- 会員のみなさんの応募をお待ちしています -

用紙体裁：横方向縦書きのA4原稿用紙使用のこと(ワープロもこれに準ずる)。楷書で誰でも読める字で書き、右の欄外にタイトル、左の欄外に氏名(俳号)を明記する。
締切：10月18日(木)消印有効
応募料：2千円・小為替等を作品に同封のこと
送付先：事務局(足立)まで
選者：選者経験者等(委嘱中)
注意事項：作品は一句一句の出来映えの他に、20句一組のタイトルを含んだ完成度も選考の対象になります。応募後の訂正には応じられません。返却はしないので、必要ならコピーを取ってください。選考は、条件を揃えるために活字化して選者に渡します。活字化の際は十分見直します。が、難読が原因による打ち間違いは、応募者の責任とします。

した。キャタピラーの跡が見えますが、そこから蘆が伸びてきています。川が復活してきています。そうい

古事記にもあるように天地は一つのものであった。それが分かれて今の世界ができたのですが、混沌としたものに帰ろうとして大地震が起こった、そのような思いの句です。理屈がかった発想ですが、震災後1週間ぐらいたつてから浮かんだものです。地震の闇百足となりて歩むべし 同

四肢へ地震轟轟とただ轟轟と 高野ムツオ

ほとんど歩きながら完成した句です。駅から家まで歩いて帰るとき、後ろから二十歳ぐらいの女性がついてきました。おどおどした暗い目をこちらに向けている、蟻のようだ。

直後、仙台駅の句です。句の形になったのは約一週間後でしょうか。今頭にあつたのは季節感

そのような句を作りましたが、まてよ、女の子が蟻だったら私は何なのだろうか、と自問しました。蟻の俊敏さに対して、六十歳を過ぎた私は百足なんだなと思いました。ここで百足には夏の季語を意識していな

い。そんなことどうでも良い、百足という存在そのものが私にとって大事でした。

常の座へ移るオリオン大地震 同

上五が当初から変わったかもしれないが、歩きながら句でしょう。オリオン座も避難し、おのきが終わってからもとの座に戻った、そういう句ですが、今思うと小細工が効きすぎているようです。

膨れ這い捲かれ攫えり大津波 同

地震を詠むには、無季でないといけないと思いました。友岡さんの句は漢語をひとつひとつ並べましたが、私の場合、地震の恐ろしさの表現は動詞だと思えました。若い俳人の神野紗希さんは、この動詞の重ね方は渡辺白泉に似ていると言いました。

泥かぶるたびに角組み光る蘆 同

泥だらけの川を見ていました。まだ蘆の姿は見えませんが、さざ波の光を見ての心象の句です。蘆は泥の中からも生えてくる、古代からこの土地に生えている植物というイメージ

が私の中にありました。泥の中にたくさん死んだ人が居ることを知り、その悲しみを表現しました。

車にも仰臥という死春の月 同

車のなかでも多くの人が死にました。仰向けになって死んだ人もいるだろう。そして車という無機質な物体にも死というものがある、そんな思いを表現したつもりです。

瓦礫みな人間のもの犬ぶぐり 同

5月末、6月に入って先ほどの写真の川に、蘆がやつと生えてきました。感動したのはブルトナーが通ったギザギザの跡に蘆が生えたこと。植物の力は凄いですね、人間もこうじゃなければいけないと思えました。仙台の荒浜は200名ぐらい亡くなっています。

(電柱の写真…細い鉄筋がささら状にむき出しになるまで破壊されている。会場から驚きの声。)

3ヶ月たっても瓦礫はそのままだ状態です。多賀城・仙台・石巻では、いたるところこういう状態です。

白梅の闇に包まれ死者の闇 同

被災地を歩き、死者のことが頭にありました。

鬼哭とは人が泣くこと夜の梅 同

鬼哭というのは元々は亡霊が泣くことですが、亡霊も元々は人間だった、人間の泣き声なんだと、そういうふう感じて作りました。

(七ヶ浜の写真…5月頃の住宅地。死者七十名。漁船が津波に運ばれて来た)

こういうなかで様々な人が俳句を作りました。「俳句」とい総合誌で「励ましの俳句」という特集がありました。俳句で励ますことができるかどうか？私は出来ないと思います。編集者も分かっていたと思います。

自分の思いとは別に、ただ励ませようとしたら薄っぺらなものになるでしょう。問題は、自分にとって、その震災とは何か、人に死とは、いのちとは何か、を自分自身の思いとして提示することにあります。そのことがひいては人のこころを打つ。掲載された句で、私のこころを打った句を四句掲げてみます。

津波あとに老女生きてありぬ死なぬ 金子兜太

自分も生きてある、という思いと重なっています。

さくら咲け瓦礫の底の死者のため 矢島渚男

死者のためのエールで、そこに作者の悲しみがこもっています。

パンジーの光あつめて祈るなり 安西 篤

さらりとした素直な俳句ですが、祈りというもののありかたが表現されています。

なにゆえの壊滅春を待つ東北に 渋谷 道

ちよつと抽象的ですが、「なにゆえの壊滅」は自然に対すると同時に自分に向けられた言葉だろうと思えます。

(写真…倒れているながら咲いている桜の木)

(写真…旧年の一目千本桜の木)

本来でしたら東北は花盛りです。普通、「一目千本桜」は吉野のことを言いますが、宮城の大河原の白石川堤の桜は、そう呼ばれて親しまれています。今年は電車からチラッと見ましたが昨年までの桜とは全く印象が違いました。

(写真・塩竈桜)

普通の八重桜とはちよつと違います。白とピンクの濃いのが入り交じっている桜です。

人により印象は様々ですが、震災を通して桜を見ると、生きるというか、一途になって必死に咲く桜に、自然の力を感じます。尊いものだなと感じます。そういう思いでいろんな作者の句を見ると、また私自身の思いも違ってきました。

塩竈の櫻は見るに手を添えよ

高橋睦郎

高橋さんには『花行』(けぎょう)という桜だけを収めた数十年間にわたった句集があります。塩竈の桜をまだ見ていないということで、睦郎さんに来てもらったときの句です。そのときは花の様を、まあ、よく捉

えているなあ、と思いましたが、今になってみると奥深いものがありま
す。「手を添える」は作者のこころを添える、桜と一体となる、花のいのちと自分もそこにある、そういう
思いの句であります。

青空や花は咲くことのみ思ひ

桂 信子

瞬間を書いているのですが、信子さんが八十年、九十年かけて見てきた桜に対する全ての思いがこの桜に入っている、そのように思います。

明日は死ぬ花の地獄と思ふべし

佐藤鬼房

私の師匠の、病気が大変なときの句です。一日一日をいつ死ぬかという思いで過ごしてきた、そういう意味では地獄なのですが、単なる地獄ではない、そこには花も咲いている、そのような地獄なんだ、といういのちを捉えた俳句です。

永劫の途中に生きて花を見る

和田悟朗

宇宙が始まって終わるまで、何時終

わるのかはわかりませんが、気の遠くなるような時間のなかで、一瞬に生きて一瞬に見た花なのだ、そういうことが読みとれます。

芭蕉さんには「もの見えたる光」

を言いとめよ、という言葉がありませんが、光というのは、ものが見えたるいのちの光であって、いのちの瞬間を捉えるのが俳句だと、震災に遭って思うようになりました。

最後に、私の桜の句をいくつかあげてみたいと思います。

一目千本桜を遠見死者とあり

高野ムツオ

桜とは声上げる花津波以後 同
みちのくの今年の桜なべて供花 同
みちのくはもとより泥土桜満つ 同

最後の句は気にいっている句です。

みちのくだけではない、日本そのものは古事記の時代から泥によつてなりたっている、だからこそ桜が咲く、そういう思いを込めました。そういう震災体験をお披露目しながら終わりにしたいと思います。

〔質疑〕

高野先生の句を見ているすと、最初は無季、そして1週間から10日して季語が入ってくるようです。この有季・無季をどのように考えますか？

〔応答〕

なかなか難しいテーマですね。自分の表現するテーマは何か、ということに係わりません。俳句は季語を表現するという人たちもいます。その人たちは今回の震災や津波を表現することが出来ません。俳句は季語が入っていないが、季節の手だてのついていない、もののいのちを表現するものだと思います。

今回の地震、大惨事では人間のいのちと深く係わる深刻な重いテーマを表現することになりますが、そのとき季語が無くて表現は可能だろう、また季語が無いほうが良い句になる場合があるということです。

私は季語を否定しているのではありません。季語がもつ宇宙・世界観を介在させることによつて、また季語のもつふくよかな情緒が、句の世界がより拡がることがあります。

私の句もほとんど季語が入っています。無季という概念は有季という概念と一緒に存在していると

思います。有季という概念が無ければ無季という概念もありません。両方とも大切な言葉の考え方と思いません。したがって有季・無季はテーマによるものだと思います。両方作っていくのが大事だろうと思います。

(拍手・終わり)

|| 現代俳句協会ブログより ||

【逝去謹悼】

足立 雅泉氏

(6月25日逝去・享年92歳)



平成3年の大分県現代俳句協会設立に尽力。同年県協会副会長となる。平成10年

より15年まで会長を務め、その後平成23年まで顧問。本部会員は昭和48年から。四十年永年在籍会員。西日本新聞俳句欄選者、九州俳句賞選者、大分県短文学大会選者、大分県現代俳句賞選者などを歴任。著書に「私家版・点字訳観世流謡曲」「趣味と植物」「俳句の愉しみ」など。

『九州俳句大会 in 大分』 来年開催

大分県現代俳句協会が後援

九州俳句作家協会主催の「九州俳句大会」は、九州六県の持ち回りで毎年開催されています。来年は六年ぶりに大分県が担当県になることが本年の長崎大会で正式に決定し、県協会の有村王志会長が「みなさんの来県をお待ちしています」とあいさつしました。この大会は大分県現代俳句協会が後援しています。

7月1日(日)、ホルトホールに大分在住の九州俳句作家協会会員が集まり、以下のことを決定しました。

- 日時 平成31年6月8日(土) 9日(日)
- 会場 大分センターリールホテル
- 投句 12月〜4月で募集 目標は千句以上
- 〈実行委員会を選出〉
- 実行委員長 有村王志
- 実行委員 九俳協会員全員
- 事務局長 谷川彰啓
- 幹事 瀬川剛一・田口辰郎・田代直之・足立町子
- 事務方 足立攝

プログラムは未定ですが、おおよその目安として、初日は16時頃からの受付で、総会のあと懇親会が開かれます。二日目が大会で9時スタート、正午頃の解散の予定です。詳しいことが決まりましたら、別途ご案内します。

第50回九州俳句賞

当協会 田口辰郎氏が受賞

※大分県8人目の受賞

「篝火」

田口辰郎

余生ばかり数えているから温もらぬ
 畑を打つ言葉戻らぬ村に住み
 これ以上漕いだら春を跳び越える
 初蝶の還る樹のない仮設村
 だんだんと金魚が僕を好きになる
 黄昏のこころに少しオーデコロン
 世界図のどこを切ってもテロの紙魚
 いま母は銀河の父へ辿り着く
 後書きもなのまま枯れてゆくのかな
 篝火の消えた母郷の海に冬

(20句中編集部抄出)

【新会員紹介】

河野 則子氏 (国東 再入会)
 蛇口まで蟬降つてくる母の死後

飯田 幸子氏 (大分) 再入会
 弾痕を覗けば悴む戦の日

渡辺 初恵氏 (大分)
 隣屋の庭の橙熟れしまま

鎌倉真由美氏 (豊後大野)
 サンングラス外し生活圈に入る

赤嶺 信子氏 (豊後大野)
 台風に耐えて古木の力瘤

猿渡 久子氏 (別府)
 車窓より夏の開聞岳の黙

【受賞等のご紹介】

《第59回九州俳句大会》

九州俳句作家協会賞
 足立 町子 (豊後大野)
 春愁を入れる隙間を空けておく
 優秀賞 田口辰郎 (大分)
 春菊の春のところが摘みにゆく

句会探訪②

大分市・大分句会

大分句会は天籟通信俳句会として発足したが、現在は結社フリーの句会である。毎月第四日曜日、南部公民館を主な会場として、大分市はもちろん豊後大野市や日田、延岡からメンバーが集まる。現在会員は九名。うち県会員八名。本部会員六名。五句を事前に事務局に提出し、句会は作者名を伏せて印刷された作品集から七句（特選一）を選句することから始まる。大分句会の特徴は、特定の指導者がいないこと。初心者からベテランまで自由かつ対等に意見を述べ合い研鑽するというスタイルである。もちろん俳句の良し悪しは多数決では決まらないので、問題

点は厳しく指摘される。こうした句会のあり方が、メンバーの個性



いることからわかる（全県の受賞者は八人）。

このように書くと、難しい議論を想像する人もいると思うが、つきつめるとあくまで基本的なこと、つまり感動（詩）が正しく言葉に転換されているかどうかの点検であり、言われれば誰でも理解できることの繰り返しである。

メンバーまたは、県協会事務局に連絡すれば自由に見学することができます。入会するかどうかはその後決めればよいだろう。私が俳句初心者として大分句会に参加したのは平成二五年の六月だから、もう五年が経過したことになる。一から成長に多大な影響を与えてくれた句会である。（田口辰郎）

の開花に役立つていることは、九州俳句賞受賞作家を六人輩出して

（このコーナーの原稿を募集しています。取材にも伺います）

《第17回宝八幡アジサイ祭》

九重町議長賞

足立 町子（豊後大野）

にんげんと神の間に濃紫陽花

日田俳句会「竜舌」
6月20日発行・B5版60ページ
俳句、随想など平成29年の集大成

大分合同新聞社賞

赤嶺 信子（豊後大野）

濃紫陽花八幡宮の色となる

いきなり兜太筆太にあり新暦
瀬川剛一

うす埃して定食屋の夫婦雛
宮崎山景

【発行誌紹介】

日田俳句会「竜舌」

6月20日発行・B5版60ページ
俳句、随想など平成29年の集大成

いきなり兜太筆太にあり新暦
瀬川剛一

うす埃して定食屋の夫婦雛
宮崎山景

優秀賞 成清 正之（天分）
誰もいない真昼の不安桜散る

優良賞 谷川 彰啓（天分）
にんげんの哀しみも巻く春キャベツ

《第29回伊藤園おーいお茶》

佳作特別賞 菅 攝子（大分）
百日紅父の初恋聞かぬまま

佳作特別賞 菅 攝子（大分）
百日紅父の初恋聞かぬまま

消息や受賞、句集発行などの記事を編集部までお寄せください。

【発展基金協力者】※一口千円

- ◇ 佐藤 綾子（三口）
- ◇ 河野 輝暉（三口）
- ◇ 白水 風子（三口）

平成30年8月20日発行

会報第百十四号

発行人・有村 王志

発行所・大分県現代俳句協会

編集人・足立 攝

大分県現代俳句協会

OITA-KEN GENDAI HAIKU ASSOCIATION

会長 有村 王志

《事務局》

〒879-7151 大分県豊後大野市三重町西泉436
足立 攝 方

TEL.&FAX. 0974-22-3749 郵便振替 01900-5-57481

URL: <https://blogs.yahoo.co.jp/nakamusi5011>

E-Mail: info@e-ada.net